

東洋炭素株式会社

2012年5月期 決算説明資料

2012年7月

東洋炭素株式会社

I. 2012年5月期決算の概要

I - 1. 2012年5月期 決算のポイント	P. 3
I - 2. 業績推移	P. 4
I - 3. 2012年5月期 業績	P. 5
I - 4. 経常利益増減要因（2011年5月期累計 vs 2012年5月期累計）	P. 6
I - 5. 製品・分野別売上高内訳	P. 7
I - 6. 製品・分野別概況 ポイントおよび今後の見通し	P. 9
I - 7. 2012年5月期 貸借対照表	P. 11
I - 8. 2012年5月期 キャッシュ・フロー計算書	P. 12
I - 9. 地域別売上高推移	P. 13
I - 10. 設備投資・減価償却費・研究開発費推移	P. 14
I - 11. 株主還元推移	P. 15
I - 12. 主要経営指標推移	P. 16

II. 2013年5月期予想の概要

II - 1. 2013年5月期 業績予想	P. 17
II - 2. 経常利益増減要因（2012年5月期実績 vs 2013年5月期予想）	P. 18

ポイント1

中国を中心とする太陽電池市場の激変により、上期と下期で大幅に業績が上下。通期としては過去最高の売上高(387億円)を計上し増益は確保。

ポイント2

上期は主力の中国太陽電池用が強力に牽引するも、下期に入ると一転大幅な調整局面に。一般産業用や機械用等の分野は年間を通じて堅調持続。

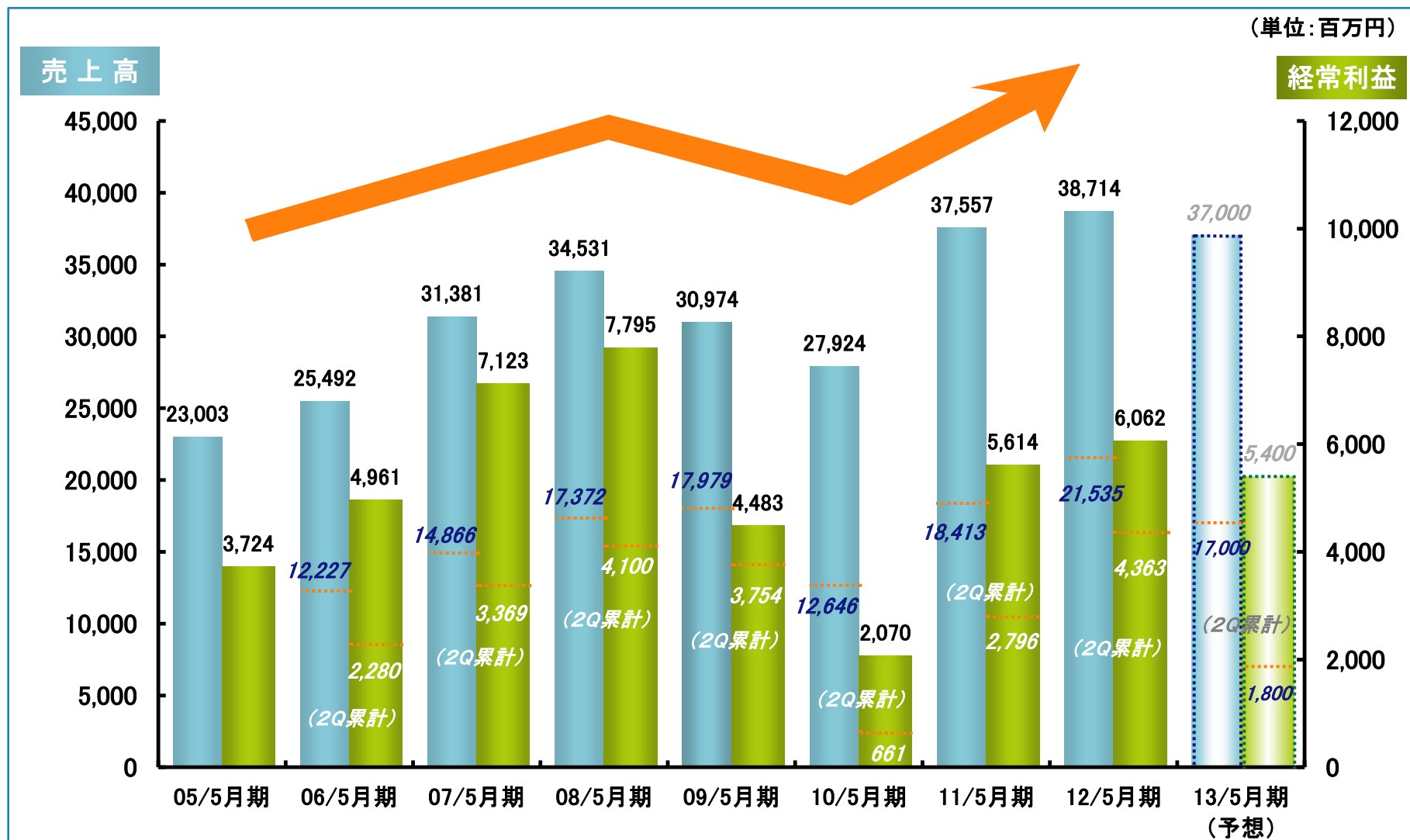
ポイント3

太陽電池用の調整自体は当初から想定済みで、回復の時期と度合いが今後の焦点。現段階では上期一杯は調整継続、下期から徐々に回復に向かうものの本格回復には時間を要する、と想定。

ポイント4

次期は、一般産業用の拡販や減価償却費減(償却方法変更による)あっても、太陽電池用の回復待ちの影響大きく、減収減益を予想。

太陽電池用の振幅大きいが、成長軌道への回帰を目指す



I - 3. 2012年5月期 業績

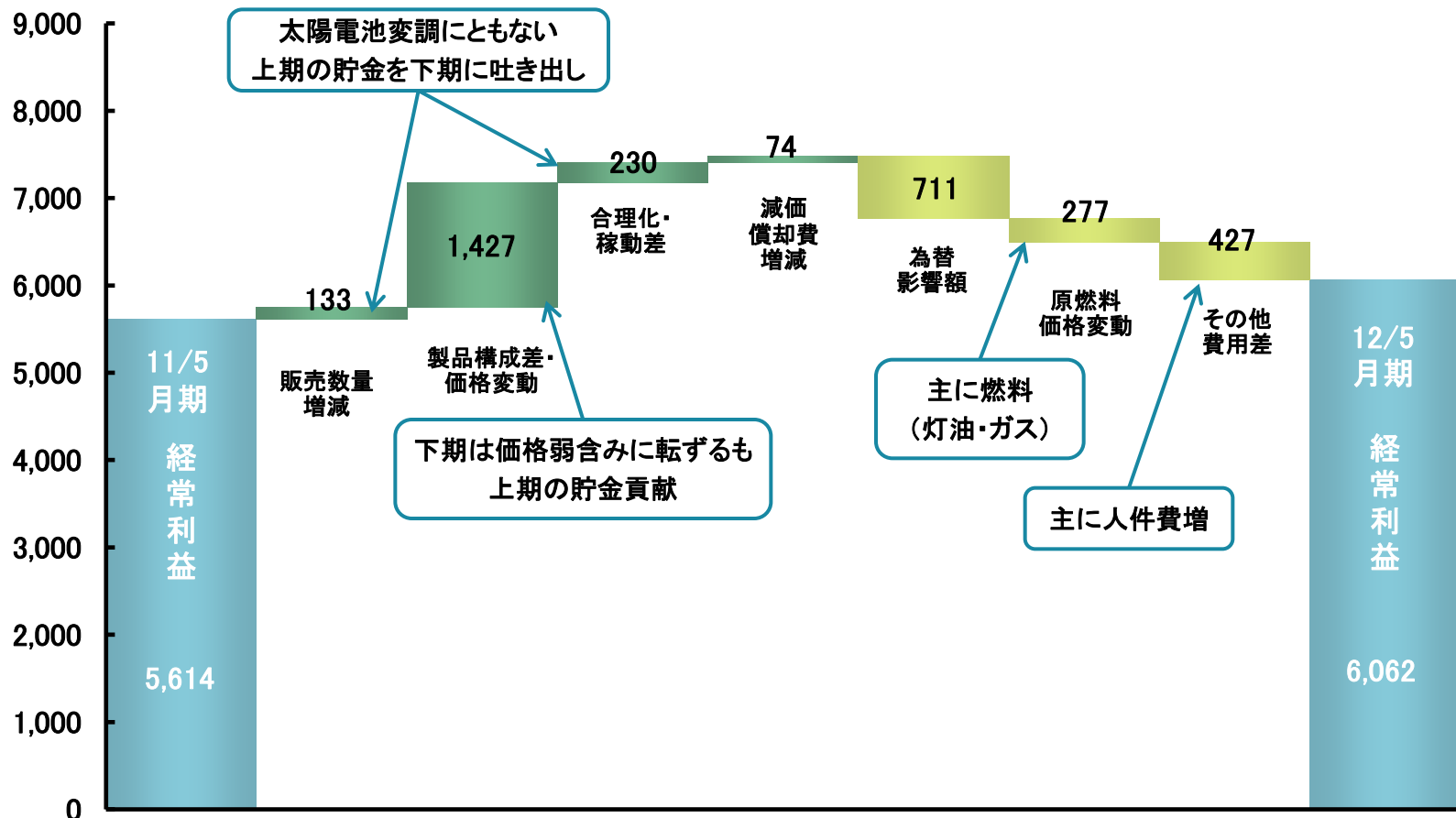
(単位: 百万円)

	11/5月期	12/5月期	増減額	増減率	ポイント
売上高	37,557	38,714	1,156	3.1 %	①売上高 上期に未曾有の売上を計上し全体を牽引した太陽電池用(特に中国)が、下期に入ると一転大幅調整局面に。一方、一般産業用や機械用等の分野は年間を通じて健闘、カバー&下支え役を果たす。
営業利益	5,868	6,055	187	3.2 %	
(売上高営業利益率)	15.6%	15.6%			
経常利益	5,614	6,062	447	8.0 %	②営業利益・経常利益 上下の落差は、ひとえに太陽電池用の落ち込みによるもの。円高ならびに高水準の減価償却費負担の影響はあったものの、前年比増益を確保。
(売上高経常利益率)	14.9%	15.7%			
当期純利益	3,699	3,466	▲ 232	▲ 6.3 %	特に上期における増販と販売価格の底上げ(付加価値品シフト含む)ならびに生産性向上が利益貢献。
1株当たり 当期純利益	178円43銭	167円20銭			
為替レート	84.0円/\$ 112.8円/€ 12.7円/人民元	78.8円/\$ 106.7円/€ 12.4円/人民元			③当期純利益 上期に移転価格税制に基づく追徴税額5.4億円を計上。

I - 4. 経常利益増減要因 (2011年5月期累計 vs 2012年5月期累計)

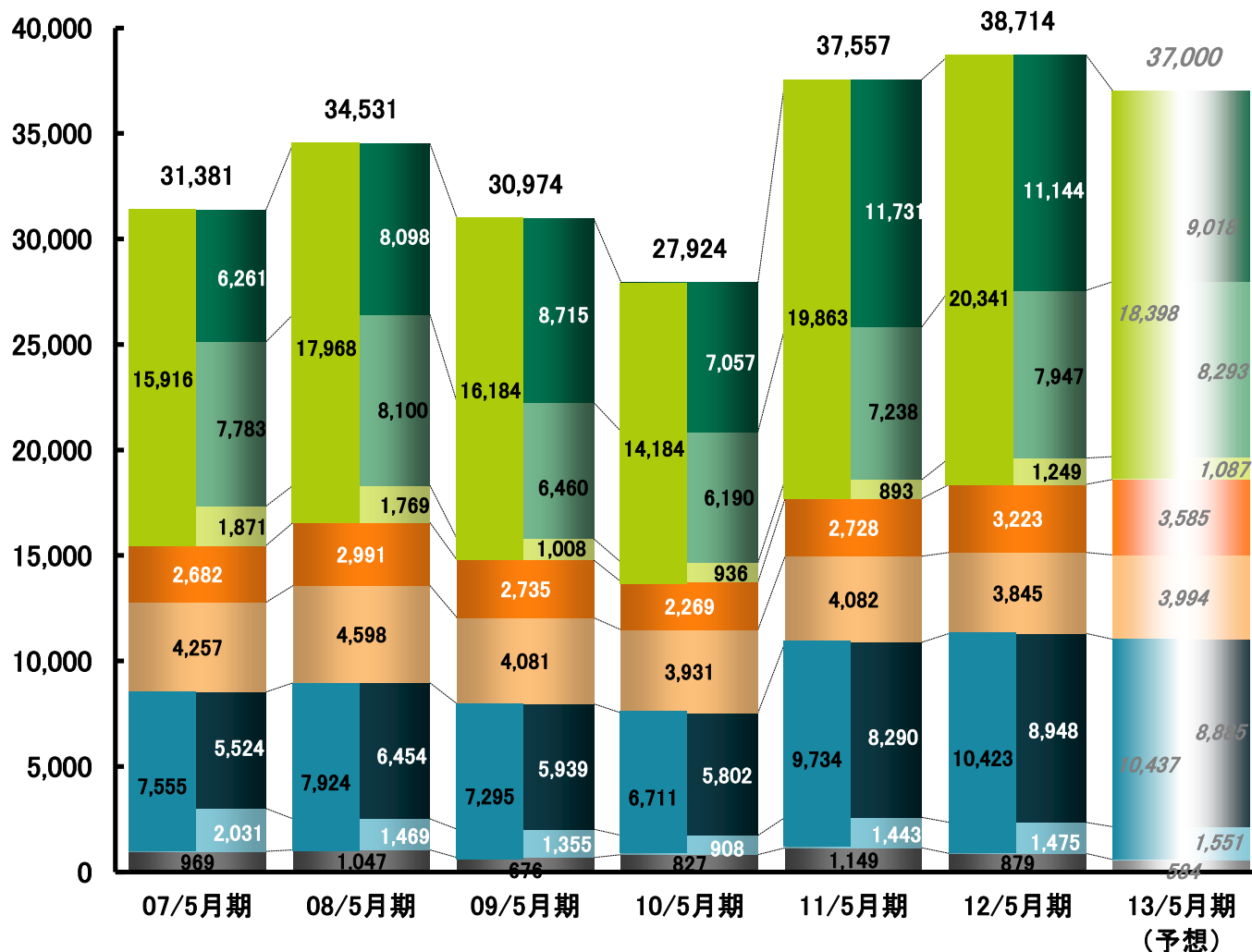
円高と下期激変の影響あるも、上期の数量・価格面の寄与大きく、増益確保

(単位: 百万円)



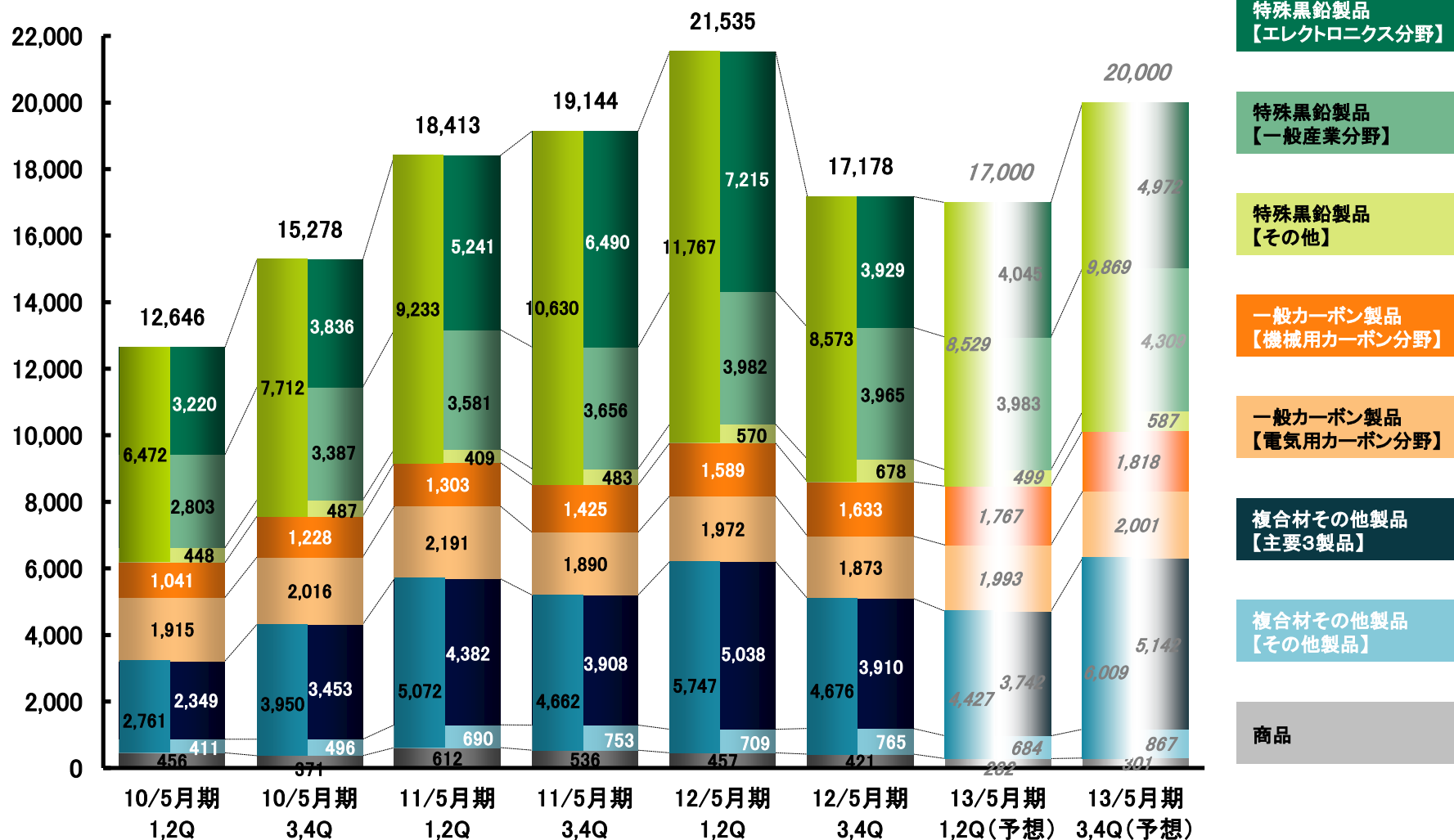
I - 5. 製品・分野別売上高内訳

(単位: 百万円)



I - 5. 製品・分野別売上高内訳（半期）

（単位：百万円）



I - 6. 製品・分野別概況 ポイントおよび今後の見通し(1/2)

用途		用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し
		12/5月期 1,2Q	12/5月期 3,4Q	13/5月期 1,2Q予想	
特殊黒鉛製品	エレクトロニクス分野				
	太陽電池製造用				・ 上期まで急拡大を続けて来た主力の中国市場は、3Qに入り供給過剰懸念が一気に顕在化、一転大幅な調整局面に入り、足もとともさらなる落ち込みはないものの底這い状態が継続中。欧州・アジア・日本等の他市場も落ち込み幅は相対的に小さいが低迷。 ・ 通期では上期の貯金あり、前年並みの売上水準を確保するも、上下対比では約半減という荒い動きとなった。全般に価格も下落傾向に。 ・ ただし調整自体は当初から想定していたことでもあり、一時的な調整をはさみながらも中長期的な成長用途であることは変わりないと認識。焦点は本格回復の時期と度合いに移って来ているが、少なくとも今上期中の回復は難しいと見ている。
	単結晶シリコン製造用				・ 半導体需要低迷の影響を受け、ウエハーメーカーの稼働率は全般に低調。特に200mmは厳しいが、300mmについては徐々に回復基調。 ・ 結果として通期では前年比微増水準。当面は低調のまま推移する見込みなるも、今やウエイトも小さく全体への影響は軽微。
	一般産業分野・その他				
	放電加工電極用				・ 主力の海外においては、タイの洪水の影響も軽微ですみ、新興国の成長を背景とする自動車・家電産業等の伸長を受けて、黒鉛需要は引き続き堅調に推移。今後も拡販に注力。 ・ 国内は、円高等にともなう構造問題も含めて金型業界の状況は厳しいが、自動車産業の回復もあり意外に底堅い。精密分野向けをはじめとする高付加価値品の拡販も期待。
	連続鑄造用・冶金用他				・ 景気持ち直しと、新興国のインフラ投資を背景に、国内外とも全般に堅調。中でも工業炉の炉内パーツやホットプレスは引き続き好調。 ・ 先行きも、特に自動車産業の好調を受けて全般に堅調に推移する見込み。太陽電池用の落ち込みを一般産業用で少しでもカバーするべく、引き続き拡販に注力。

I - 6. 製品・分野別概況 ポイントおよび今後の見通し(2/2)

用途		用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し
		12/5月期 1,2Q	12/5月期 3,4Q	13/5月期 1,2Q予想	
一般カーボン分野	機械用				・ 拡販が順調に進展。景気持ち直しを背景に、主力の軸受け・シール材がポンプ・エアコン・プラント向けに伸長する等、総じて好調に推移。震災復興関連需要も後押し。 ・ 結果として、通期では前年比2割増水準。先行きも一部減速感あるものの、総じて堅調に推移予定。 ・ 景気変動の影響少ないパンタグラフ用すり板は、私鉄等への拡販も含めて引き続き安定的に推移。海外展開に向けてワーク推進中。 ・ 主力の中国市場は市場が伸び悩む中で競争が激化、価格下げ圧力も強く苦戦。海外売上高比率が高く、円高による目減りも響く。 ・ ただし景気変動による振幅は相対的に小さく、中長期的には新興国需要を背景に漸増を見込む。グローバルなコスト競争力ならびに開発力の強化がキー。 ・ 産業用・自動車用とも、景気持ち直しを背景に底堅く推移。規模は小さいながら風力発電用や鉄道車両用にも拡販進む。
	一般産業用				
	輸送機械用				
	電気用カーボン				
複合材その他製品	主要3製品				・ 化合物半導体(LED用)は、一部回復の兆しが見られたものの、急拡大の反動にともなう調整が長引き、未だ本格回復には至っていない。ただし省エネ志向の高まりを受けて、特に照明用を中心に普及が進みつつあり、今後徐々に回復に向かう見込み。半導体関連(Si-Epi用)は回復傾向にあったが下期以降は失速し、低調に推移。 ・ コーティング品全体としては、上期の貯金あったが通期では微増水準に留まった。次期も、上期は一部調整を引きずる見込みなるも、下期にかけて徐々に回復を期待。中長期的な成長分野であることは変わりなく、素材～加工～コーティングの一貫競争力をさらに高めていく。 ・ 半導体用大型ルツボは、主要顧客の在庫調整も解消し総じて回復基調継続。半導体市況は厳しいが、今後も底堅く推移する見込み。好調だった太陽電池関連は、国内外とも下期に入り急失速。複数のプロジェクト案件も下期はもともと予定が少なく売上規模は減。 ・ 一方、工業炉等の一般産業関連は引き続き堅調。C/C全体としては、通期では前年比で1～2割増となった。ただし、今後はプロジェクト案件の一服も含めて弱含みの見込み。 ・ 主に自動車用が牽引し、総じて好調に推移した。半導体用の先行きは不透明なるも、今後も自動車用を中心に底堅く推移する模様。
	SiCコーティング黒鉛製品				
	C/Cコンポジット製品				
	黒鉛シート製品				

I - 7. 2012年5月期 貸借対照表

(単位: 百万円)

	11/5月末	12/5月末	ポイント
資産合計	65,191	71,900	
受取手形及び売掛金	13,047	13,124	①たな卸資産 出荷減少による素材在庫増および中間在庫の計画的積み増し等により11/05末比3,233百万円増加。
たな卸資産	12,454	15,688	
有形固定資産	26,162	29,210	②有形固定資産 詫間事業所における製造設備の増設等により11/05末比3,048百万円増加。
負債・純資産合計	65,191	71,900	
有利子負債	2,071	2,738	
資本金	7,692	7,692	
純資産	51,748	55,064	
自己資本比率	77.5%	74.4%	

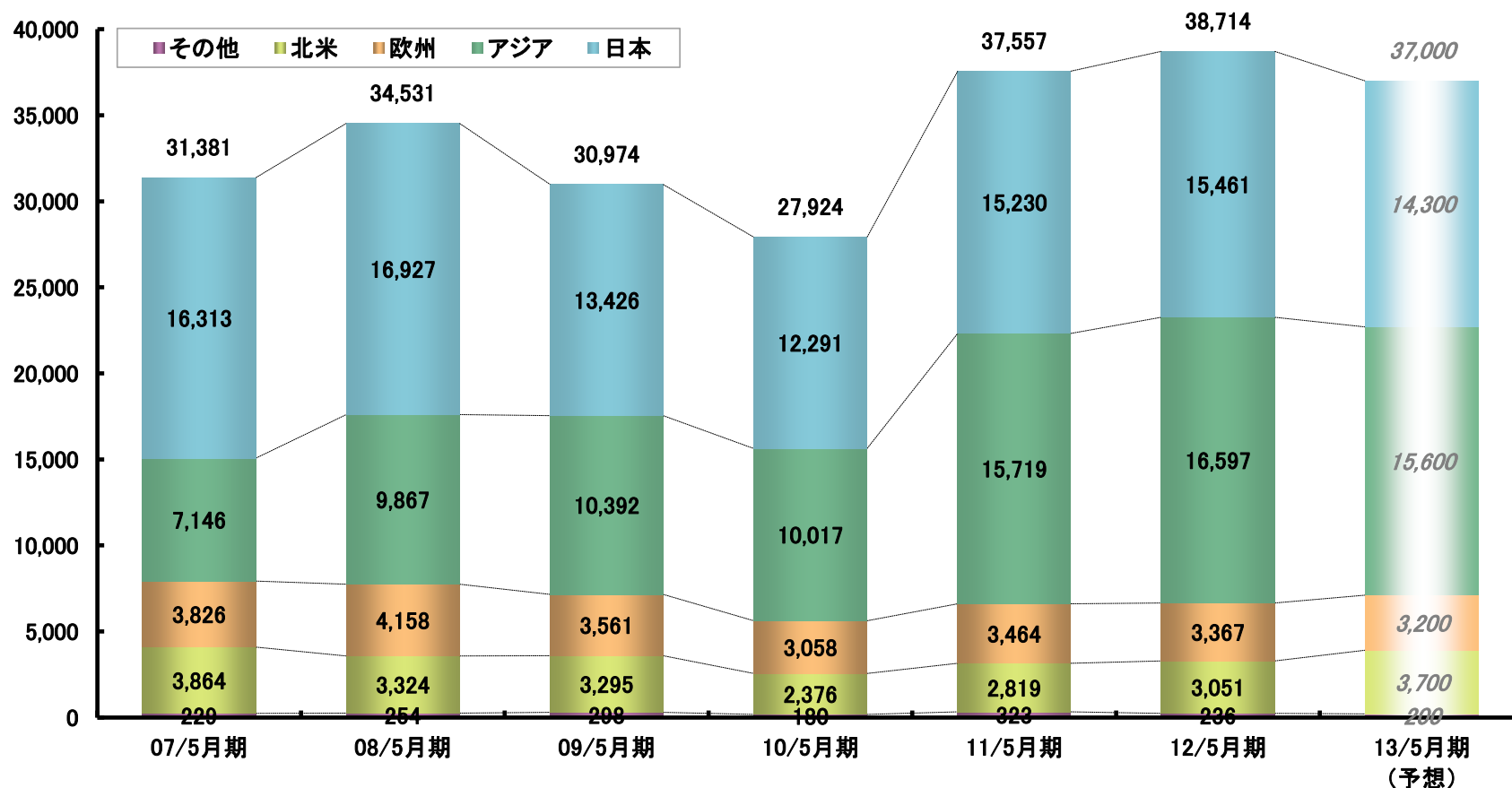
I - 8. 2012年5月期 キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

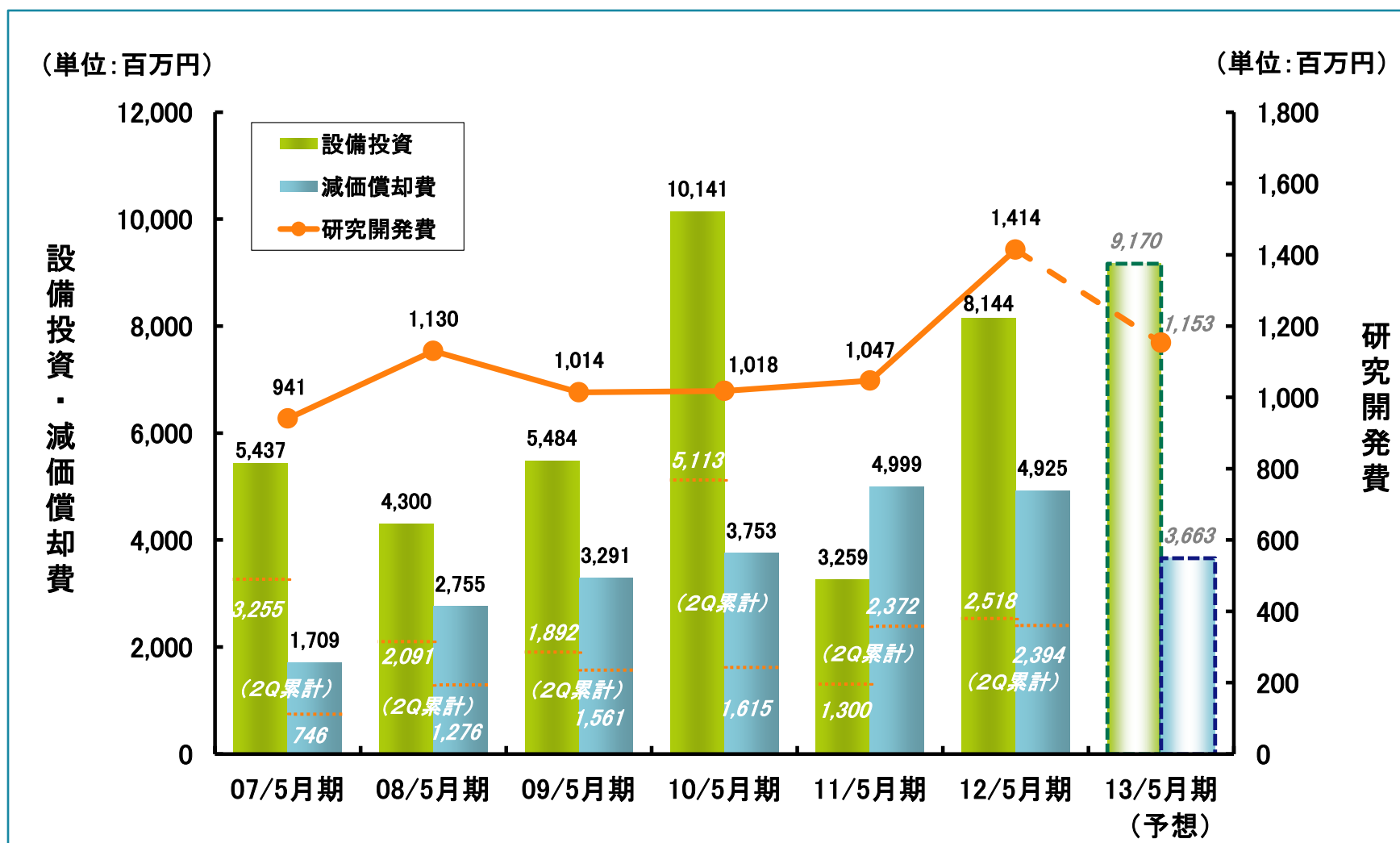
	11/5月期	12/5月期	ポイント
現金及び現金同等物の期末残高	7,090	7,205	
現金及び現金同等物の増減額	1,288	114	
現金及び現金同等物の期首残高	5,802	7,090	
営業活動によるCF	7,301	3,964	①営業活動によるCF 税金支払増とたな棚卸資産の増加。
投資活動によるCF	▲5,380	▲3,920	②投資活動によるCF 設備投資増なるも、未払金増。
財務活動によるCF	▲550	158	

- ▶ 海外売上高比率は60.1%と微増（通期では初の60%超え）。ただし中国太陽電池の乱高下を主因に、上下対比では大幅に変動（上期63.7%・下期55.6%）。
- ▶ 今後も主に新興国への拡販を推進、海外比率を高めていく計画。

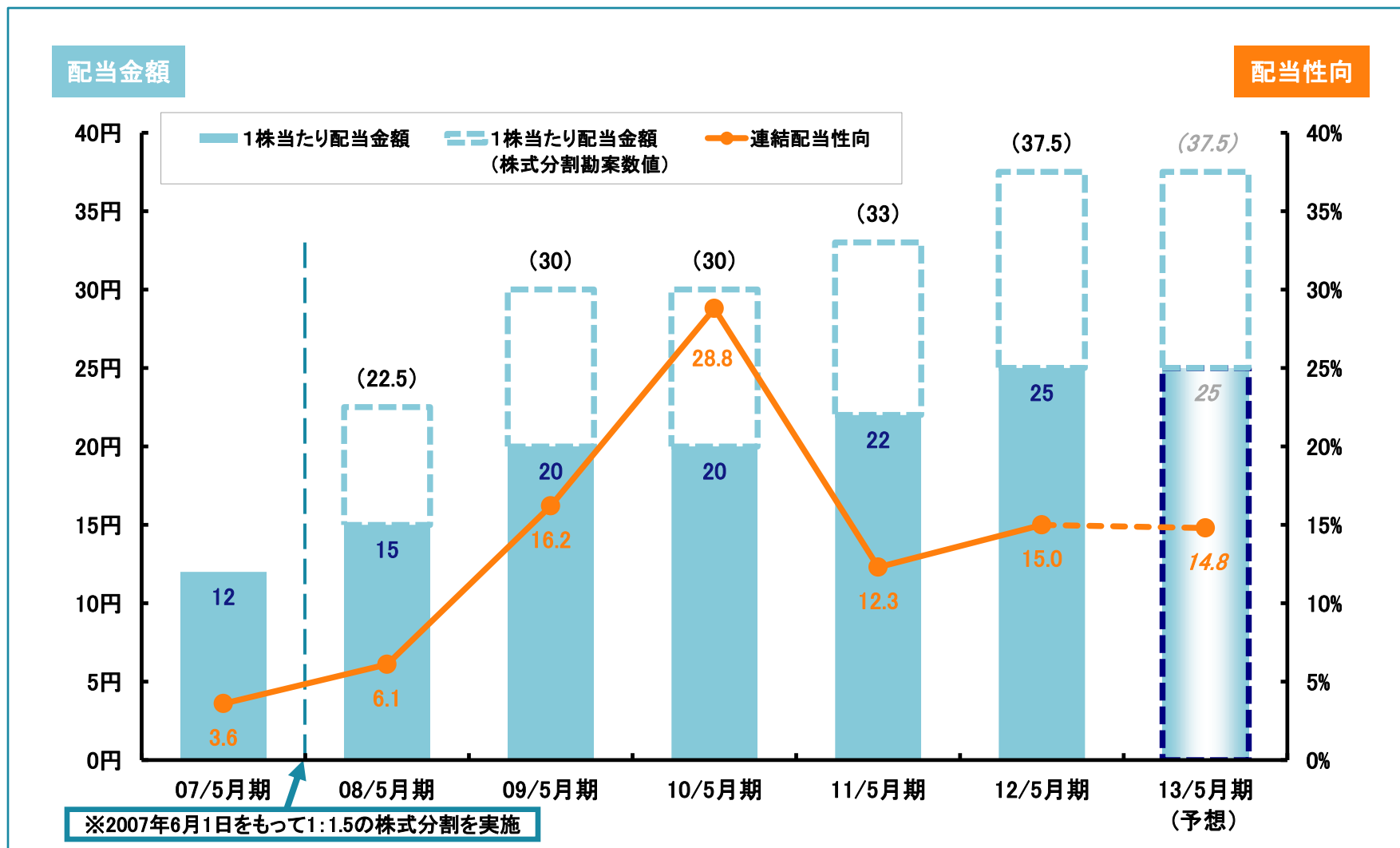
（単位：百万円）



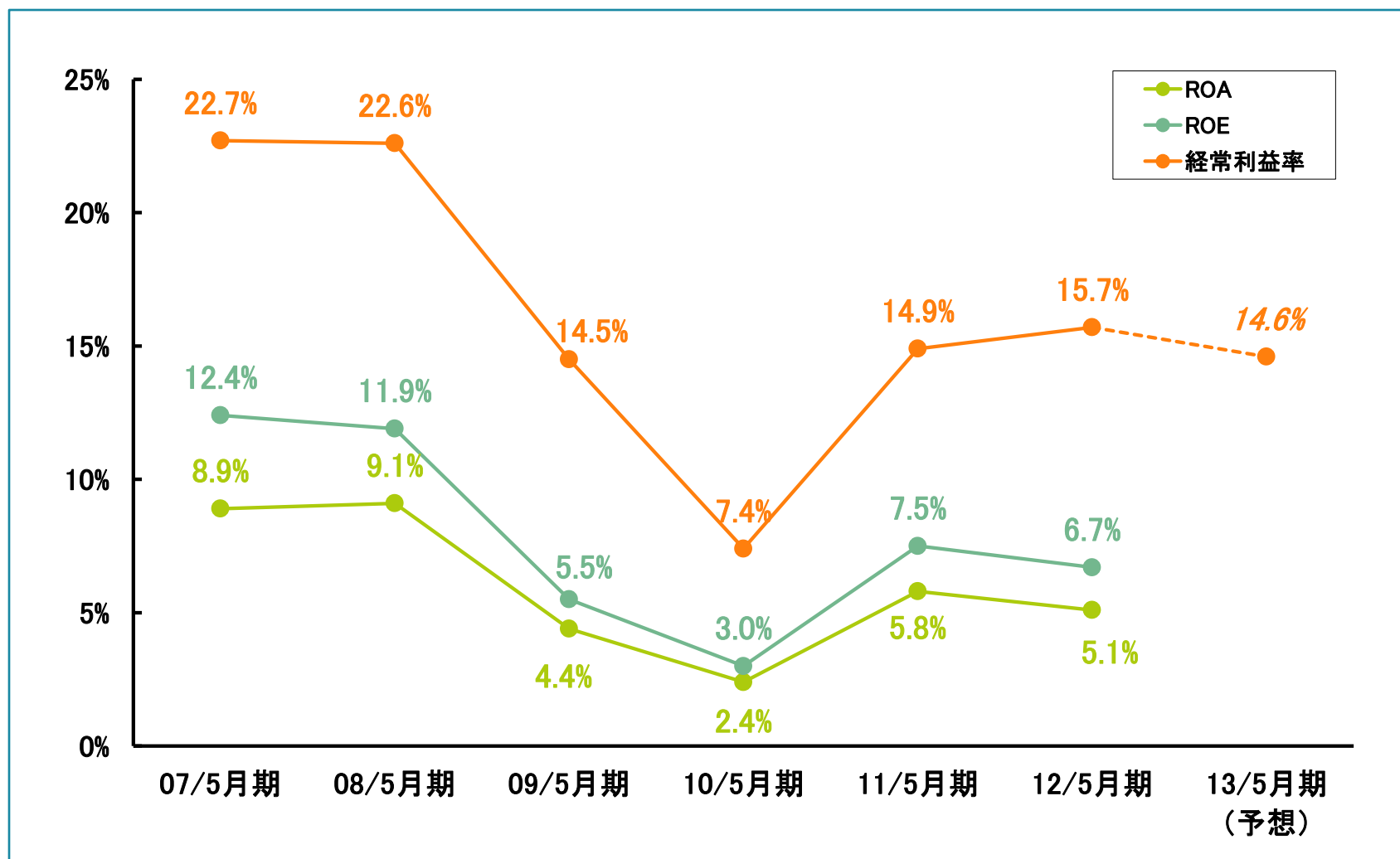
大型戦略投資(一部次期にずれ込み)中心に高水準投資継続。
次期の減価償却費は定額方式への変更により減額。



成長への再投資とのバランスも勘案しつつ、次期は据置きを予定



経常利益率は15%水準を確保(上期実績は20.3%)。
ROEは将来的には二桁水準をベンチマークに。



Ⅱ－1. 2013年5月期 業績予想

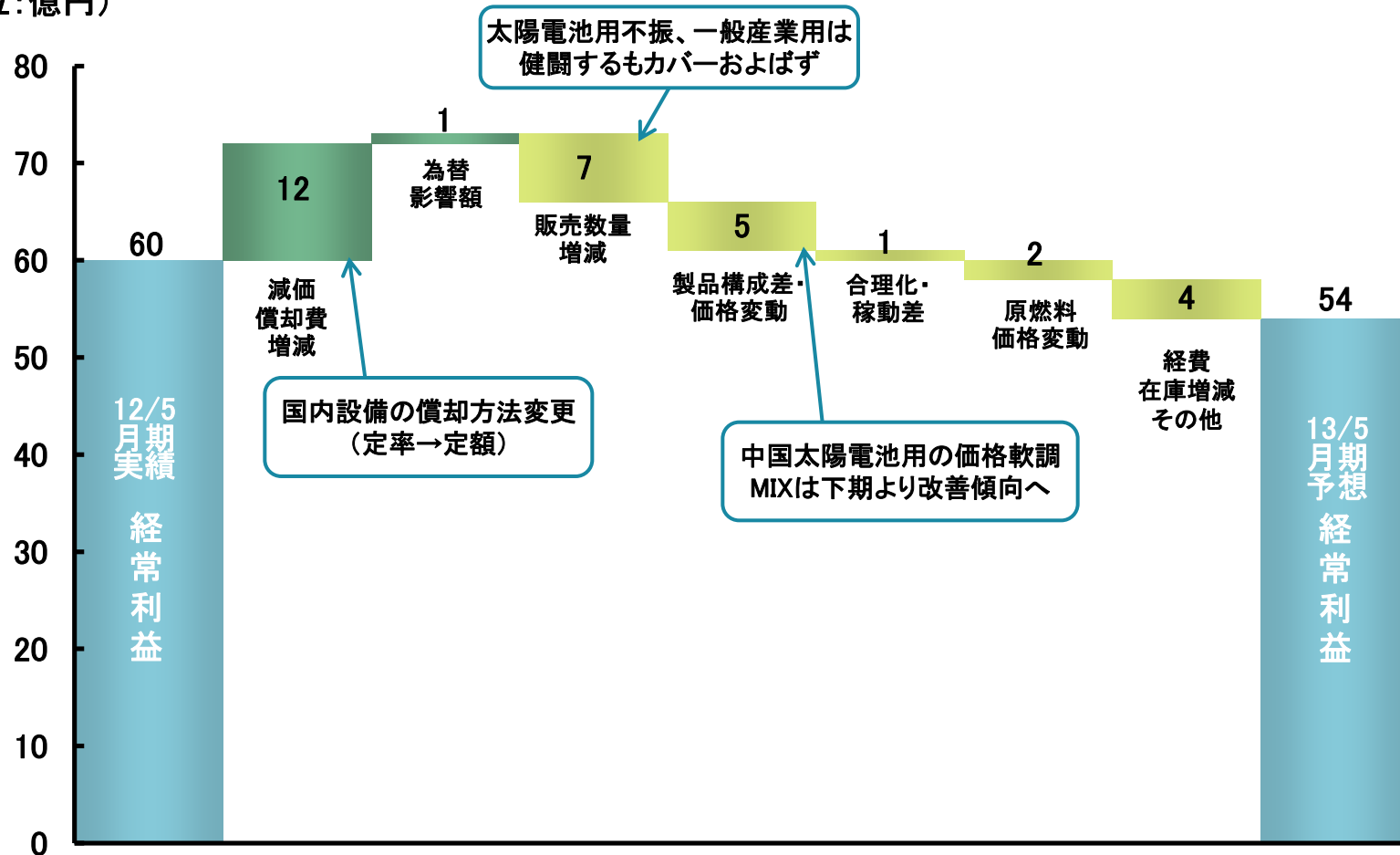
(単位: 百万円)

	12/5月期	13/5月期予想	増減額	増減率	ポイント
売上高	38,714	37,000	▲ 1,714	▲ 4.4 %	①売上高 懸案の太陽電池用は、上期一杯は調整継続、下期以降緩やかに回復に向かうとの想定。一方、一般産業用や機械用等は引き続き堅調に推移すると予想。
営業利益	6,055	5,500	▲ 555	▲ 9.2 %	
(売上高営業利益率)	15.6%	14.9%			付加価値の高いLED用は、下期よりの回復を見込むが足取りは緩やか。前期に拡大したC/Cコンポジット製品も大型プロジェクト案件の一品により減少する等、複合材製品全体としては横這い水準に止まる見込み。
経常利益	6,062	5,400	▲ 662	▲ 10.9 %	
(売上高経常利益率)	15.7%	14.6%			下期については不透明部分多いが上記を勘案し売上高は370億円と微減水準に設定。
当期純利益	3,466	3,500	33	1.0 %	
1株当たり 当期純利益	167円20銭	168円80銭			②営業利益・経常利益 上期の太陽電池用を中心とする販売数量減と販売価格下振れを主因に、減益を想定。
為替レート	78.8円/\$ 106.7円/€ 12.4円/人民元	80円/\$ 100円/€ 12.7円/人民元			
					③当期純利益 前期の追徴税額なくなり微増益。

Ⅱ－2. 経常利益増減要因 (2012年5月期実績 vs 2013年5月期予想)

太陽電池用は調整を引きずると想定、数量・価格とも軟調を予想

(単位: 億円)





(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

＜お問合せ先＞

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL: 06-6451-2114(代) FAX: 06-6451-2186

E-mail: ir@toyotanso.co.jp